

校長室から
(R元年度)

ひがしなら通心

茨木市立東奈良小学校 川上 隆 No. 21

令和元年7月12日(金)発行

終戦の日は、平和を願う日

みなさんは来月15日がどんな日か知っていますか。8月15日は終戦の日、または終戦記念日と言って、戦争が終わった日です。今から74年前の1945年に終わった第二次世界大戦のことです。この戦争で多くの人が兵隊となり亡くなり、多くの子どもが親やきょうだいを亡くしました。国の中では多くの町がたくさんの爆弾を飛行機から落とされました。子どもたちは「疎開(そかい)」といって、爆撃の心配のない遠くの農村などに移されていました。お父さんやお母さんと離れて寂しい生活をしていました。寂しくても家には帰れませんでした。

こうして何年もたって、8月15日によりやく戦争が終わりました。戦争が終わったとき、人々は何を思ったでしょう。考えてみてください。人々は「戦争はもうこりごりだ」と強く思い、「もう戦争はしない」と心に誓ったのでした。多くの人々が住む家もなく、食べるものもろくにないところからの再出発でした。でも、人々には平和への希望がありました。そして、人々は戦争がないことに喜びを感じ、一所懸命に働きました。それから19年、今から55年前の1964年。わが国は世界の人々と一緒に平和を願い祝うスポーツのお祭りであるオリンピックを開くまでに復興したのです。日本の人々は、東京オリンピックを見事に成功させ、戦争に負けて失った自信や誇りを取り戻しました。

そして、来年の2020年に再び東京にオリンピック・パラリンピックがやって来ます。スポーツの選手だけでなく、大勢の外国の人々もやって来ます。みなさんはどんなオリンピック・パラリンピックにしたいですか。

世界の中には、残念ながら今この瞬間にも戦争や争いに苦しんでいる子どもたちがいます。少しでも早く戦争や争いが終わることを願うとともに、世界の大勢の人々とともに平和を願うスポーツの祭典が成功してほしいですね。

8月15日は終戦の日であるとともに、戦争のない平和を願う日でもあるのです。長い夏休み、毎日新聞にも目を通してみましょう。8月に入ったら、8月6日、8月9日、8月15日に関する記事が特集されるはずですよ。



「いじめ」を考える

いじめは、集団生活の中で起きてはならないことですが、誰もが被害者・加害者・傍観者になる可能性があります。『君たちはどう生きるか』という本は、コペル君という15歳の少年が、日常の生活で体験する様々な悩みや思いを、父親代わりであるおじさんとの会話やノートの手紙で整理していきます。この本は、芳野源三郎さんが書いたもので、今から約82年前の1937年に発表されたものですが、現代の人たちにも感銘を与える秀逸なもので、2017年に出版された漫画版は、発売半年余りで200万部売れたそうです。

学校内で起きる嫌がらせや暴力について、コペル君は、友人や上級生からのいじめを受けたときには協力して立ち向かおうと友だちと約束をしたのですが、いざというときに助ける勇気が持てず、立ちすくんでしまい、それを悔やんで学校を休んでしまいます。コペル君を見守るおじさんの言葉を要約して紹介します。

「人は自らの行動を決定する力を持っているからこそ、過ちを犯してしまうこともあります。しかし、過ちに気づくことで立ち直ることもできるのです。何かに悩んで苦しいのは正しい道に戻ろうとしているからなんです」

いじめについては、大津市で起きた痛ましい事件をきっかけにして、法律が作られました。それを簡単な一言で表すと「人に嫌な思いをさせてはいけません」ということです。嫌な思いはそれぞれに受け取り方が違うので、深く考えず、おもしろ半分やからかいでそのような行為をしてしまうことがあります。しかし、嫌な思いをし、心の傷を受けた人にとって一生忘れられない体験となってしまうのです。

本校では、各学期に1回アンケートを実施するとともに、そうしたことを早期に発見し、先生方が一人に対応することなく、組織で把握するためにていねいな対応を心がけたいと思います。どうか、いじめのない学校をみんなで作りましょう。

みんなのためのルールブック

「あたりまえだけど、とても大切なこと」 ロン・クラーク 草思社

ルール21 先生にあいさつしよう

学校中の先生の名前を覚えて、見かけた時にはきちんとあいさつしよう。

●学校にいる人全員を知っていれば、そのぶんきみたちは居心地(いごち)がよくなる。校内に知っている大人が多いほど、何かが起こったときに助けてくれる人が多くなるからだ。